

令和3年度 第5回沼田市市民構想会議の概要について

- 1 日 時 令和3年12月22日（水）午後2時から午後4時
- 2 場 所 テラス沼田5階 第2委員会室
- 3 出席者
 - (1) 委員 栗原明男委員、池田進一委員、吉野篁委員、青木富士夫委員、
小林昭紀委員、田村博史委員、小野里順子委員、小林彰幸委員、
林康夫委員、阿部健委員、山本隆一郎委員、田辺祐己委員、
松井孝夫委員 (13名)
 - (2) アドバイザー 篠田 暢之氏
 - (3) 沼田市 五十嵐副市長、諸田総務部長
(事務局：星野企画政策課長、生方課長補佐兼政策推進係長)
- 4 配付資料
 - ・ 次第
 - ・ 令和3年度第4回沼田市市民構想会議の概要について
 - ・ 第5回「沼田市市民構想会議」
- 5 概 要
 - (1) 開 会 (事務局：企画政策課長)
 - (2) 会長あいさつ田村会長
 - (3) 前回の会議結果について 【事務局から説明】
 - (4) 議 題 (事務局：企画政策課長)
 - 1) 検討テーマの協議と絞り込みについて
 - 2) その他
 - ・ 次回の会議日程について
＜第6回＞ 1月20日（木）午後2時から
- 6 議題内容
 - ・ 詳細については、別紙発言録のとおり

【会長】

みなさんこんにちは。今年もあとわずかとなり、お忙しい年末にも関わらず、お集まりいただき、大変ありがとうございます。コロナ禍もようやく沈静化したように思われましたが、新たな変異種株の感染拡大が危惧され、すっきりしない状態が続いています。

それでは会議の議長を務めさせていただきます。次第の3、前回の会議結果について、事務局から報告をお願いいたします。

【事務局】

令和3年度、第4回沼田市市民構想会議の概要および発言録については事前に送付させて頂きました。第4回会議は11月11日、午後2時から図書館4階視聴覚室で開催し、①経済・産業のためのDX、②観光・文化振興のためのDXというテーマで協議して頂きました。

本日は引き続き、③生活向上のためのDX、④社会的弱者のためのDX、⑤DXから見た沼田の未来のまちづくりについて、ご協議いただく予定です。

【会長】

それでは提言に向けた検討について、はじめに篠田先生からアドバイスいただきたいと思っております。先生お願いします。

【篠田先生】

ご存じのように、本年度のテーマのDXは、経緯から言えば、昨年9月の菅政権の終盤にデジタル庁を立ち上げるという方針に沿って、急加速された国の方針に沿う施策です。しかし実際は、国も細かく内容を精査・検討したうえで具体的な内容に踏み込んだ提言が施策として、進められた訳ではありません。そのような状況で、全国の地方自治体に向けて発信された案件ですので、沼田市も国が目指す目的と、沼田市独自の取り組みとなるよう鋭意、検討され進められている案件になっていると思えます。

恐らく、沼田市の取り組みとしてはDX活用により、マイナンバーカード等を中心に、市民サービスの向上を従来にも増して利便性を高めるよう検討されていると思えます。そのため、こうした本格的な取り組みを前に、各界代表のみなさまからご意見を頂こうというのが、今年度の市民構想会議のテーマであるDXと理解しております。

残念ながら日本は世界の先進国と比較しても、デジタル技術の活用においては2周遅れの状況が続いています。デジタル技術の活用によるメリットについては、前回のこの会議でも、成功例のご報告もありました。同時に、情報活用を協働できるような積極的な取り組みがあれば、地域経済への効果もこれまで以上に高まるとの、DX活用を共同で進める取り組みの重要性についてもご指摘がありました。

前回の話題に、小学生にも一人一台タブレットが与えられて、リモートによる授業が進んでいるとの現状報告とご意見がありました。そこで子供たちのデジタルとの関係性について、この機会に考えておくべき点について参考までにお手元の資料（5月26日発行、朝日新聞「多事奏論」）を配布させて頂きました。

アップルのスティーブ・ジョブズさんは、家で子どもたちにタブレットやパソコンを子供が成長するまで、意図的に使わせなかった事実が記されています。結論から言えばジョブズさんは、人として大切な「考える力」や「感じる力」の基礎ができてからでも情報機器の活用は決して遅くないと、自らの体験から考えていたというのです。

パソコンやタブレットを使い、様々な疑問を解こうとすると、答えはすぐに見つかります。YESかNOか、あとは削除の3択となります。幼い子どもには多様な着想による様々な結論があつて良いと教えるべきだという訳です。これはジョブスさんの考えですが、この考え方が必ずしも偏見ではないと提起しておられるのが、東京大名誉教授の佐藤学先生です。佐藤先生は日本を代表する情報通信技術や、WEB世界の著名な研究者です。先生は「情報通信技術（ICT）教育が学力向上につながるという証拠（エビデンス）は少なくとも現象面からも証明されておらず、その検証はほとんどない。」と述べておられます。少々意外ですが、人間性の豊かな涵養という点では、ジョブスさんに通じている意見です。

国際学習到達度調査（PISA）委員会が2015年にまとめた報告書では、先進国の集まりであるOECD加盟国29カ国のデータ分析では、学校でコンピュータの使用が長時間になると、読解力も数学の成績も下がったという衝撃的な内容が報告されています。

DXの議論をしているのに、否定的な話ばかりで、怪訝に思われる方もおられるかもしれません。今、あげた諸事実は子ども達に関する話でICT利用の前向きな議論と分けて考える必要があるとご理解いただきたいと思います。こういった事を理解した上で現実の社会生活を快適にする、より良い技術として、それらを暮らしに活用するにはどんなことが求められているか議論することが、ここでの本題ではないかと思えます。

最後にデジタル弱者のための、小さな子どもたちやお年寄りなど、スマホを使えない世代の方々に関しても、今後デジタル技術による社会改革が進められる中で、この流れに乗り遅れる方が出ないようにフォローする議論も、大切な課題ではないかと思えます。

デジタル社会への警句として、東京大学名誉教授の御厨 貴（みくりや・たかし）先生はITバブル崩壊後の2005年に、コンピュータを介在とする情報世界にしっかり取り組まないと、日本は大きな問題を招くと指摘（「論壇時評」）されました。

大衆迎合（ポピュリズム）による社会的混乱を招く可能性と、何をしても、どうにもならないと考える虚無主義（ニヒリズム）を生み、社会全体が思考停止に陥る環境へと突き進むと、デジタル時代の社会変化を危惧され、警告されました。今から15年前です。

この見通しの背景には、新しい技術であるコンピュータ技術の活用による社会的影響を慎重に熟慮するよう指摘されたのです。これらの技術の普及が社会的問題を引き起こすことへの注意が一層求められているというのが、御厨先生が示された見識でした。

その指摘から既に16年が経ち、本格的に日本のICT時代、DX時代を迎える今、沼田市におけるDXは、そういった先生方の研究、警告、配布資料（「多事奏論」）等に見られる指摘を念頭に、DXの活用とその可能性を議論・検討して下さいばと考えました。

【会長】

ありがとうございました。それでは皆さんからご意見をいただきたいと思います。

【委員】

市民生活と聞いたときに、一番、うれしいかなと思ったのは、やっぱり健康だと思いました。健康があるから、市民生活があると思います。tengooと健康促進

が連携できると良いと思いました。例えば tengoo でポイントが貯まると、それが健康活動のひとつであるジムで優遇されるなど、tengoo と運動の組み合わせです。ジムを始め、あらゆる健康に関わる部分で、ポイントが活用できれば、興味・関心をもつ人も増えるように思います。

もうひとつは、社会的弱者という表現が気になります。社会的弱者の代わりに、取りこぼさない、取り残さない、という言い方に変えた方が、望ましいように思います。

【篠田先生】

ご指摘の、取りこぼさない、取り残さない、という意味を込めて、DXの流れに乗り遅れる、乗りたくても乗れない方たちを、どうフォローするかという問題点を社会的弱者という簡潔な言い方で表現しましたが、これは必ずしも差別意識による意図からこの言葉を使った訳ではありません。ご指摘のお考えと同じ想いですが、ざっくりと「仮置き」的に表現しましたのでこれに代わる、適切な表現があれば、遠慮なくご訂正して頂けると助かります。

【委員】

出生率が落ちている訳ですから、普通に考えても人口増加にはなりません。そうなったとき、地域を支えていくのは誰かという問題に直面します。とりわけ、第一次産業である農業分野は深刻です。例えば農地の管理や食料生産を全部、今のままの状態を維持できますか？という話になってきます。そうなった場合には大胆な取捨選択が迫られ、捨てる対象となるモノが出てきます。

従来とは異なる担い手を迎え入れる新しいダイバーシティ（多様性）を受け入れる必要性が高まります。

群馬県全体でいえば、既に何十万トンのお米が余ってきています。人が食べる量はほぼ決まっているからです。一気に米の消費を引き上げることは非常に厳しい面があります。皆さんもメディア報道でご存知だと思いますが、牛乳が今余っています。勿体ない話ですが、牛乳を捨てる状況にあります。この事実からも理解できるように、実は農家は厳しい状況にあります。

外食産業がコロナ禍で休業状態が続き、企業は業務用のチーズだとかバター等、大きなパッケージで作りますが、そういった商品が2年間、在庫になったままで、もう作っても売れない状況になっています。過去には一時期、家庭用のバターが足りない時がありましたが業務用を生産していた為に、一般消費者向けの商品が作れませんでした。しかしそれも限界にきています。余った生産物を国外に売る等、方向転換を考えないといけないところまで追い込まれています。

大型店が郊外に出てしまった中で、中心市街地をこのままにしていたら寂れてしまうと思います。その主因は人がいない。買い物をする必要がない訳ですから。農業だけでなく、商業も工業も必要ですが、もう少しターゲットを変える必要があると思います。

新しい時代を創っていくのは若い人たちだと考えています。

沼田は決して悪いところではないと思いますし、交通事情も良く、新幹線にもすぐ乗れます。高速道路のインターも近くに4つもあり環境的には恵まれています。これを活かさきれていないのが現実かなと思いますので、その辺も含めてしっかり討議していければと思います。

【委員】

一昨日こちらで開催された、会議名を見たら、市民構想会議と起業塾の主催（参考開催）とあり、多くの委員のみなさんも参加されたようでした。私も話を

聞いて、新しいことを聞いたというよりも、私たちが目指し議論していることが、そこにあったことが確認でき、いい時間だったと思います。

市街地を集中させて作ることと同時に、沼田の良さの「疎空間」という言葉を言っていました。人があまりいない、景観が美しい等、色々な条件があるようでしたが、この土地に魅力を感じるそういう文化である山間地を農地として使うのは、確かに難しいと私も思いました。

その中に先ほど tengoo と健康の話があり、どちらも重要だなと思いました。

前回の②の観光・文化振興について、私は沼田市民こそが沼田の観光や文化をもっと味わい尽くす取り組みがあっても良いと考えています。沼田まつりも市街地の方だけでなく、周辺地域に住む子供たちや大人も大いに参加し、盛り上げることも必要だと思います。文化の伝承として観光資源になればと思います。

【会長】

Tengoo も 18 億円が既に使われているとのお話がありました。

【副市長】

20 億円以上発行し 18 億円くらいを既に消費している形になっています。コロナの経済対策で国の交付金が来ており、それをうまく活用してプレミアム感を出した、そういう取り組みを進める中で、市民が直接的にメリットとなるという、DX の時代に合致したキャッシュレスの便利な生活に慣れて頂けたらとの想いも込めて取り組みました。他の地域通貨に比べても非常にタイミングよく企画推進ができたと思います。

【会長】

ありがとうございました。

Tengoo に利用者あての通知が出せる仕組みになっていますよね。ですからお買い得情報みたいな形で、それをどんどん使っていくことを考えたらいいかなと利用者の一人としても思っています。

デマンドバス関連では 4 月から実際に動かすと小耳にはさみましたが、それらについて若干、つなぎで話題提供を事務局から、お願いしたいと思います。

【事務局】

今時点のデマンドバスの準備やその予定ですが、今年度 3 月下旬に実証実験として走り始め、来年度カスタマイズをしていきたいと考えております。

市内の交通事業者さんとも協議を重ねて、条件の整備をしている最中です。状況が確定し次第、情報をお出しする形勢です。デマンドバスをタクシーのようにドア・トゥ・ドアで走らせてしまうと、タクシーと変わらなくなり、一緒になってしまいます。そうした弊害を避けるために、バス停を用意し、現在のバス停よりもう少し、距離的に短い場所にバス停を設置し、そこで予約して乗っていただく計画案です。もちろん電話で予約できます。スマホがなくてもできます。

イメージとしては、太い道路だけでなくもう少し細い道路まで入った所までバス停が設置されます。ゴミステーションの間隔のイメージで、多めにバス停を設ける準備しているところです。

【委員】

地域を見まわると高齢者の方が衣食住を含めて、生活に支障があり困っているとよく耳にします。車が乗れなくなったら買い物も行けなくなるので、連れていてもらえるシステムがありますかという質問もあります。

こうした現状を知るたびに、悩んでおられる問題の解決を図る何かいい手立てがないかと思案していましたが、DX による技術の活用により、解決につながる

取り組みができる可能性がある」と知り、今後はその取り組み次第では、今悩まれている問題の改善が図ればよいかなと思いました。

【委員】

誰も取り残さない弱者のためのDXでも、結局スマホがないと簡単にはいかないように思います。現状ではお年寄りには、スマホが苦手な方が多くいらっしゃると思います。固定電話しかお持ちでない方に、アイコンが3つか4つ程度の簡単・便利なスマホで、バス、タクシー、病院とか、高齢の方でもすぐ使えるような通信機器があると解決が可能です。これを高齢者に全戸配布するシステムにしないと、弱者を救うといっても、なかなかできないと思います。

【委員】

私の父も半年くらい前にスマホデビューしました。父が楽々フォンに切り替えた理由は、従来の携帯電話より安いという理由でした。

まずは電話だけでもと使い始め、その後tengooも使えるようになりました。何だかわからないまま押して使っているうちに、段々、使えるようになってきたようです。一日の半分くらいはスマホを触っているようです。ややこしくないものであれば、高齢者でも暮らしに取り込めると痛感しました。

バスの利用料金はどんな考えでしょうか。

【事務局】

利用料金は、ほぼ一律の設定で考えております。今のところ1回500円前後で考えております。民間の定時定路線バスとのバランスもあり、市民サービスの観点からは繰り返し活用して頂けるよう、この点からも、低額な設定が望ましいと考えています。

現在、「ぬまくる」という名称で市から委託路線でお願いしている部分を、デマンドバスに差し替えます。委託路線をデマンド型に変更する部分の他は、鎌田線や猿ヶ京線について民間事業者がバス事業をされています。「ぬまくる」は委託路線のデマンド化です。

【委員】

利根郡内のある地区では、高校生以下の子供たちは無料でその区間の路線バスに乗っています。車の維持費が年間定期券に比べて高く、定期券にお得感がないと、誰も車を手放そうしないと思います。しかし一回500円ですと毎回では躊躇します。財源を無視して安く利用できるのであればお年寄りが車の運転をやめ免許返納する方も増えてくると思います。

それがもう少し発展して、交通弱者に加えて子供たちが入ると可能性が広がると思います。市内でも2キロメートルくらい学校から離れているお子さんは、ほとんどが子供の送迎を親がしており、小中学生までそのような状態です。

【篠田先生】

比較参照して頂く意味から、私が住む岐阜市の実情を具体的にお話したいと思います。従来からの路線バスがありこれに加えて、コミバス（コミュニティー・バス）が一時間に平均1～3本、大型バスの通常路線にない、きめ細やかな路線を設定して運行しています。

ひと区間の距離は徒歩で4～5分の距離です。折り返し運転でなく円環状にぐるぐる回る路線設定です。乗車賃は1回、百円で、終日乗車していても問題ありません。路線は病院、スーパーマーケット、最寄り駅やバスの接続・停留場が含まれています。

この間も、家電屋さんに買い物に行った際、おじいさんがコミバスに乗っていて運転手さんと会話をしていました。運転手さんが「おじいさん、今日は1回目だけど、2回目、3回目そのまま乗る？」と聞くと、おじいさんは「このまま乗る」と返答していました。どうやら、おじいさんはヒマを持って余し、バスでグルグル市中を回るのを楽しみにしているようで、そんな利用の仕方もあるのかと妙に感心しました。

通常の市中バスは210円で、市役所から頂いたカードに入金しておけば入金金額がある限り簡単・便利に活用できます。しかもこのバスカードはコミバスでも使え、市民の足としてはすこぶる便利で低額利用が可能です。

新しい取り組みとしては、市街地中心部では、運転手のいないバスの実証実験走行が始まっています。実証実験を踏まえて、安全性や使い安さ等、デジタル化された社会変化が急速に進んでいることが首都圏ではない地方都市でも、それが身近にわかります。

こうしたシステムの導入は、後発地域の方がより精度の高い走行性能や多様な活用が期待でき、DXという視点からも今後、大いに期待が持てそうです。

【会長】

ここで5、6分休憩を取りたいと思います。

***** 休 憩 *****

サイダーとカレー（東部商工会提供）の紹介

【会長】

ご発言を求めます。

【委員】

「四国の葉っぱビジネス」をテレビで見てびっくりしました。

お年寄りがスマホで情報を共有して村民あげて即応するビジネス展開に取り組み、年収一千万円を超える収入を得ている話で、DXを活用した農業になってきているように思います。

昨今、上毛新聞に近隣中学校の生徒が、防火林の下草狩りをして、その意義について盛んに投書しています。「百聞は一見に如（し）かず」を実践して、その事実や意識を共有しようとする姿を見て、私たちも地域を駄目にしないためにどうすれば良いか、その解決を進める手立てを模索していく必要があると痛感しています。それは弱者切り捨てにならない事に繋がると思います。

昔は学校の連絡網は一枚の紙に凶化されていました。それが近年の個人情報保護法でなくなりました。今はスマホを使って、一斉メールできるので、情報の共有やその活用方法の取り組み次第では、効果的な活用が可能です。例えば独居老人の状況把握をする上では、スマホの活用も利用価値が高いと思います。

【委員】

高齢者の方で足腰が悪くてバスに乗れない方もいらっしゃると思います。そうした方々のために、定期的に食料品を宅配するようなサービスや、移動販売のシステムがあれば、助かる方々も多いと思います。

【委員】

先日、民生委員の方とお話する機会があり、そこで耳にしたことは、コロナになって訪ねていけないため、情報が入ってこないと聴きました。

学校からのお知らせは学校から一斉に連絡が来ます。親同士の連絡は全く取りようがない印象です。電話での連絡先も知りませんし、実は連絡が取れないことが本当に困る場合があります。地域で運動会の競技選手集めをする連絡ができな

いと、毎年、体育委員が変わるため直接、電話番号を聞いておかないと本当に困ってしまうことがあります。前の役員から聞いちゃいけないなど、個人情報の取り扱いが大変です。

P T A役員にしても、地区の役員にしても、各自がバラバラに連絡をとりあうようになっていて大変不便です。もっと双方向で情報のやり取りができる仕組みやシステムが必要です。宅配もそうですし、情報の共有について民生委員さんの先ほどの話も含めてD Xで改善できないかと思えます。

【会長】

今の関係で、災害時に助けが必要な一人住まいの方などについて、その情報を集めようと民生委員と地区とで進めているのですか。

【委員】

もう一步踏み込んだ、災害対応については、まだ何もできていないと思えます。会議でも、どこの家が一人暮らしだから、この辺までは大丈夫とかいう話が出ています。が、具体的にどう行動し進めたらいいかそこまでの議論はありません。一気に無理でも、徐々にそういったところまで踏み込み、あとはD Xをうまく活用して、情報共有ができると思いいます。

【委員】

いまの件で言えば、うちの地区は、班長さんにそれなりの役割をきちんと持って貰いその報告がきます。班長さんと区の3役の共有で、独居老人の情報の状況など、独居に限らず体調の悪いような方の把握をしています。何年か前に防災訓練をしまして、それ以降、区会委員という制度が出来ました。その決議機関の皆さんに、それぞれ役割を持ってもらう形になっています。幸い災害がなくこの仕組みの活用はありませんが、その把握は区の3役とできている状況です。

【会長】

やっぱり電波が届かない場所では、D Xの活用が難しく、届かないところはアナログの、人と人の繋がりで行っていくのが現実的で、必要なのかなと思えます。デジタルと人の力のアナログの併せ活用ですね。

【委員】

会長の発言にあるように、デジタルを使って駄目だったら、電話を使って、電話で駄目だったら、直接訪問ということになると思えます。お話をお聴きしていると困っている人と、それに対応する人を繋げるのがD Xの一番の役割かなと思えました。スマホ持っていれば好都合ですが、それが難しいのでしたら、ゴミ出しの援助をしてくれるよとか、移動販売とかありますよと、知らせる事も必要かと思えます。

【会長】

障がいのある方に向けたコミュニケーションのひとつである、手話がスマホだとかタブレットで動画・送信できると便利ではないかと思っています。

外国人の技能修習生を結びつける場合も同じです。担い手の研修生方と受け入れの雇用主との間で情報伝達する際に、双方向の言語による翻訳機があると便利です。ポケットが活用されている時代ですから、そういったコミュニケーションの方法として、有益な活用になるように思いました。

【委員】

薄根地区ではドローンによる実証実験もさせていただいています。ドリフト（吹き流される）をどうコントロールするか、その操縦が難しいです。ドローンを使えばヘリコプターよりも低空で散布できます。この分野では従来型の小型の

モノよりも、かなり大型化したドローンが開発されており、今後は普及していくと思います。問題はまだ金額的に高価で、普及には時間が掛かりそうです。機械性能の問題や技術的な問題もありますが、最終的にはドローン活用が日常風景になると思います。

タクシーも、ドローンで代替できるように開発が進んでいる時代です。これまでは、多分無理だろうと考え、否定してきたことが普通になり当たり前の時代になってきています。我々がいま、あれは駄目なんじゃないのと思っているものが、いずれ現実的に開発が進み、一般化される日がくると思います。

問題は技術の進歩があっても、収益性の問題がその負担に耐えられるかどうかです。そう考えると、農業も最新の技術を取り込んでも、収益性がそれをカバー出来るように変わっていきけるかどうかです。

もうひとつ農産物の場合は気候に支配されており、天災による被害など、予測できない場合があります。今年は、さくらんぼがほぼ全滅に近かった。リンゴも春の凍霜害でダメージを受けている農家もあり厳しい状態が続いています。

沼田はいいところだと思います。ただここに住む人が必ずしもその良さを自覚していないと思います。これまで、そうした沼田の良さを、外に向けて発信してこなかったのも、その一因を生んでいたかもしれません。市としてもいろんな形で外向けのPRをした方がいいと感じます。

【委員】

ドローンに絞りにこんで言えば、私も猟友会（駆除隊）といって銃を持ち、野生動物の駆除をしています。冬になると、山がけっこう透いて見えます。ですから、この時期にドローンを使って野生動物の搜索をし、駆除するという方法もありかと思います。提案していますが、やはり金の問題から無理だとなります。

簡単に実現できるはずの事がお金の問題で議論が止まってしまいます。ドローンの操縦で、野生動物を見つけ、無線で連絡をとり、逃げていくところで待っていれば、成果を挙げられます。この時期を選びドローンを飛ばして、野生動物の駆除が簡単に出来、獣害を少なく出来るのです。

【委員】

赤外線での発見もしますが、玉原でも鹿の調査で、赤外線で行う方法は知っていましたが、ドローンを使って追うという発想はなかったですね。

【委員】

調査する場合の許可は出ると思いますが、野生動物をドローンで見つけて射殺・駆除するというと、やはり安全上の問題からも難しいですね。

【委員】

実はこういう時期には、雪の問題が心配です。白沢の場合も「ご近所会」という組織を立ち上げ、お互い様という考え方に立って、支えあおうという訳です。主要道路は事業者によって除雪されるのですが、その道路から自宅までの間は、下道（げどう）と言ってその雪かきができない。

あるいは、奥の方に行く、屋根から降ろしたりができない等、なんとかうまく具合にボランティア組織的にお互い様の気持ちで、できないかと白沢を見本に、自分の地域でもそういう考え方で、実行しています。やっぱりアナログですよ。もう年寄ばかりで自分達でやるしかない。やがては自分達も、助けてもらう側になることですからね。

【会長】

ありがとうございました。

利根地域では社協（社会福祉協議会）が中心になって、雪かきの講習会とか、ボランティアとか、去年から活動し始めたところです。

【委員】

国がやっているボランティアポイント制度を tengoo とつなげて考えることは難しいでしょうか。

健康と tengoo を結びつけて考えるように、沼田でボランティアポイントも、同じように使えるようにしたら良いと思います。国も始めた以上、補助とかがあると思いますから、こういう助成金を貰い沼田に役立てる事もいいと思います。

【委員】

子ども達の話題の中心には、いつも給食の話があります。小さな字の献立表が配られていますが、食材へのこだわりや食文化やその伝統食とかにも配慮が行き届いていて、関係する方々の想いが伝わってきました。

そうした経験から、今ならクリスマス会などの行事食を作って頂けないのかと思いました。コロナ禍の中で「黙食」が奨励され、給食時間は子ども達の会話も必要最小限に制約されており、昼食時の校内放送は子ども達が食事と共に集中的にそのお話に耳を傾けられる時間だと思います。その時間に、冬至とかぼちゃの話とか放送し、それをラジオやネット等で同時に流し放送してはどうかと思いました。子供たちが帰宅しても、家庭で給食の話を持共有できるからです。

学校で行われていることが、必要に応じて地域の大人の方にも共有されるような仕組みが広がり、活用できる機会が増えれば、点字でも、手話でも、活用する場面は広がられていくように思います。

【会長】

ありがとうございました。

社会的弱者というよりは、スマホの取り扱いに不慣れな「スマホ弱者」の方がどこに行けば必要な操作を教えてもらえるか前回会議で話題になっていたと記憶しています。

私もスマホデビューからそれほど長い時間が経っていませんが、周りに若い人がいれば教えて貰えますが、そうでないと途方に暮れてしまいます。そうした意味からもスマホの駆け込み寺のような場所や機会が常時あるといいなと思います。この点では委員さんが指摘された通りだと思います。

それによって、DX本来のメリットを享受できるように感じます。そのスタートラインに立つための、そういう場所の必要性というのは、前回の会議の発言とおりがかなと個人的にも、そう思いました。

【委員】

利根沼田では税収はすごく少ない。ほかの県や地域に比べて少ない中で、テーマとして提起された、3番の課題に予算を使うよりも、1番、2番に力を注いだ方が個人的には良いように感じます。

3番の市民生活の向上にDXを活用する、確かに重要な視点ですが、市民生活向上には、市のお金を使って動かすものではないと個人的には感じています。

1番、2番の経済とか観光とかに、お金を使ってもらう方が、結果的に市民生活の向上につながるのではと基本的と感じています。逆に、4番の社会的弱者の方に必要な予算をつけることは重要だと感じています。公共バスの充実、安全な暮らしが守られているか自宅訪問など、個人的な宅配とか、そういった支援をするのは重要だと感じます。

【委員】

市民生活や医療では、一人当たりの税金の投入額がとんでもない額です。先日の講演会でお話があった通り過疎地で生活する方は、一人当たり一千万円以上の税金を投入しないと生活できない。東京なら人口が集中しているので、それが50万円、100万円という投入額になるそうです。

例えば、社会的弱者と言われる方に対して、非常に専門的なレベルで見守りや連絡が出来るようになっていきます。そういう問題に一般論として片付けられるかどうか。今の技術力はどの程度有効なのか把握しておく必要があると思います。

要するに一人暮らしの人、訪問看護のような医療福祉の面も含めた形で、制度設計をしっかりと組み立て直すのが行政を含めて、市民の今の課題かと思っています。

今、市で活動している沼田地域づくりプロジェクト、利南、薄根、池田、川田の各コミュニティセンターを中心に地域づくりをスタートしました。このプロジェクトには市職員が入っていると報道されていますが、是非お願いしたいのが、今ここにいる委員の年齢を見ても、平均年齢がかなり高いです。しかし、これからはお話のとおり、本当に十代くらいの人たちの発想を、積極的に取り入れる必要があると思います。

提案として、地域づくりプロジェクトは地元名士だけが集まるのではなく、小中学生まで集めた形で、是非、地域について議論をしてもらう試みがあっただけいいと思います。既存の頭で考えるのではなく、柔らかい頭で考えていく地域づくりプロジェクトを是非若い人の意見をいれた形で進めていただきたいと思っています。

それと人口減の中で過疎化が進みますが、この過疎の「疎」から「有」を生むアイデアがあっても良いと思います。事務局は是非、その取り組みを主導して頂きたいと思っています。

新しい発想で沼田市を考えるようなものを行政で提案していただき、大胆な発想を是非、実現していくにはどうしたらいいか、これからの会議ではお願いしたいなと思っています。

【会長】

ありがとうございました。そろそろ時間になりますけども、「社会的弱者」という表現のことについては、時間がなくなりましたが、この表現上の問題は事務局にお任せいただくことでよろしいでしょうか。

それでは先生から、アドバイスをお願いしたいと思います。

【篠田先生】

今年度の市民構想会議のテーマ、DXについては委員の皆さんからも有意義なご提案が種々提起され、工夫次第ではすぐにでも取り組める提案や、慎重な議論が必要な提案もありました。共通の想いは、市民の皆様方が暮らしをこれまで以上に誇り豊かなふるさとであって欲しいとの願いを基に発言されていた事です。

委員さんの、中山間地域の暮らしは難しくなるとの指摘は人口減少問題につながる難問で、この問題は食料の生産にとどまらず人が安全に安心して生活することにすべて関わることから危惧されたご発言でした。

農作物の生産は人が生きていく上で必須条件ですが、その担い手が限りなく手薄になるこの危機的状況を打開する新しい農業技術として、DX活用のスマート農業が現実加速しています。農業現場の危機を救う新しい農業技術が、農産物の生産現場を変革し始めています。

今や電子デバイスを使った小型化された人の作業に近い機器の開発により、農作業の現場では実際に大きな力を発揮し始めつつあります。委員さんの、捨てる部分があっても、もはや止むを得ないと言う前向きな表現は、農業の機械化によ

る技術の更新を含めて、時代に適合する取り組みの重要性を強調されてのご発言だとは理解しました。

前に進むためには、過去を振り切り、新たな変化を受け入れる姿勢や価値観の転換が求められています。このことは農家にのみ当てはまる事ではなく、どの分野も結局、持てる力を、どこに集中するかという「選択と集中」の議論であり、言葉を変えれば「選別と特化」を鮮明にする、取り組みの重要性の議論としてお聴きしていました。

これを推進するために、DXによる『モノや仕組み、サービス、組織、ビジネスモデルなどに、新たな考え方や新しい技術を取り入れて、従来にはない新しい価値を生み出す取り組み』（イノベーション）の議論を、避けては通れないというご指摘や議論であったと思います。どなたの場合も物事を集中して議論し、優先順位を明確にする重要性を強調されていたと思います。限られた資力やマンパワーを集中投下する考え方は97年から始まっていました。

沼田市が勝ち残るには、何をどのように、特化するかの議論が急がれているのです。故事の「狭き門より入れ」を市民的合意として可能な限り議論を尽くす事だと考えます。他には負けないものは何か、沼田市にのみある優れた土地の産物や技術等、それらを磨き上げる「棲み分け」を自覚した上での、DXの活用が急がれているのです。

【事務局】

事務局から連絡でございます。次回の会議日程ですが、新年明けの1月20日、木曜日午後2時から開催いたします。第6回は「沼田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の進捗の検討をしていただくこととなります。今日の発言録と一緒に前もってお渡ししたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。引き続き提言につきましては、協議よろしく願いいたします。以上でございます。

【会長】

以上で議事を終了させていただきます。ご協力ありがとうございました。

【事務局】

これを持ちまして、第5回沼田市市民構想会議を終了させていただきます。お疲れ様でした。